

教えて先生！「涙道閉塞」ってどんな病気？

眼の表面は常に涙で覆われています。涙腺で作られた涙は眼球の表面を潤し、涙小管、涙嚢、鼻涙管を経て鼻内へとながれます。(右図)この涙の通り道のどこかが詰まってしまうのが『涙道閉塞』です。

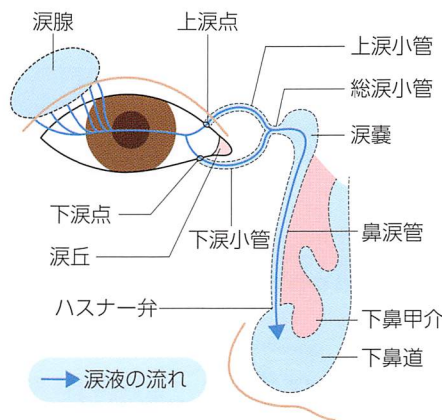
〈症状〉

◎涙目の状態が続く ◎目やにが大量に出る など

〈治療〉

局所麻酔をしてから「涙道内視鏡」を使って閉塞部を解除させ、シリコンのチューブを挿入して経過観察を行います。

これらの方法で改善しない場合や、閉塞を何度も繰り返してしまう場合などは「涙嚢鼻腔吻合術(DCR)」を行います。皮膚を切開する方法(鼻外法)と鼻内視鏡を使って鼻の中からおこなう方法(鼻内法)があります。治療は、患者さまの症状にあわせて、担当医が最善の方法を選択します。



涙道の構造と涙液の流れ図



お茶の水・井上眼科クリニック
涙器外来
方倉 聖基 先生

こんな症状があったら要注意!

- 泣いていないのに、涙があふれて視界がぼやける
 - めやにがたまりやすい
- 気になる症状がある方は、担当医にお伝えください。

電子カルテ導入のお知らせとお願い

井上眼科病院とお茶の水・井上眼科クリニックでは2019年1月5日(土)より、電子カルテを導入することになりました。

カルテの電子化により情報共有や伝達がスムーズになり、効率的な診療が可能となることでサービス向上につながると考えております。

導入に際しまして、職員が不慣れな点や想定外のトラブルによって、受付・会計・診察等でお待ちいただく時間が長くなることも予想されます。しばらくの間、ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

◆新入局医師のご紹介◆



小原 賢一

(おはら けんいち)

西葛西・井上眼科病院

主に硝子体疾患の診療及び手術を専門としております。白内障、緑内障、硝子体、眼瞼など、幅広く手術を行っております。また、難治性の血管新生緑内障に対する手術療法にも力を入れてきました。手術だけではなく、受診して頂く患者さまに、今日も来て良かったと毎回思っているような丁寧な診療を心がけております。誠心誠意努めてまいりますので、宜しくお願い致します。



山内 啓子

(やまの うち けいこ)

お茶の水・井上眼科クリニック

大学及び関連病院を経た後、26年間地域医療に携わってきました。一人ひとりの患者さまを長期にわたって拝見できたことは得難い経験でした。患者さまを通して学んだことを今後の診療の中でも生かせるようにしたいと思います。



全国で活躍中の井上眼科 OB の先生方を紹介!

高輪台眼科クリニック

社本 真紀 院長

2003年～2005年 井上眼科病院



落ち着いた雰囲気の内院



社本院長(左)と当院の井上(右)

今回ご紹介するのは、東京都港区の「高輪台眼科クリニック」院長 社本真紀先生です。社本先生は、地方の大学病院・総合病院での勤務を経て井上眼科病院に入職されました。当時を振り返り「全国からたくさんの患者さまが来院されている様子に圧倒されましたが、諸先生方に丁寧に指導いただき、恵まれた環境で幅広く勉強させていただけたことで、眼科医としての今の自分があると感謝しています。」とおっしゃいました。

社本先生のクリニックは、高輪台駅から徒歩1分の場所にあるメディカルビルの7階にあり、駅からのアクセスも良好です。忙しい方

にも受診していただけるよう、待ち時間をできるだけ短くするために予約診療を取り入れています。また「眼の総合病院として専門外来が充実している井上眼科病院との病診連携で、質の高い医療を患者さまに、提供できることが強みです。いつも丁寧に診察して下さる先生方には大変感謝しております」とお話をいただきました。

「前理事長の故・井上治郎先生がおっしゃっていた『患者さまは家族だと思って親切に下さい』という言葉を中心に刻み、地域の方々の「目のかかりつけ医」として患者さまに寄り添った丁寧な診療を心がけてまいります」